

“人間一家畜一環境をめぐるマイクロ連環系の科学”の構築 ～青海チベットにおける
牧畜語彙収集からのアプローチ

平成 27 年度第 1 回研究会報告

日時：平成 27 年 6 月 6 日（土曜日）（10 時より 19 時）

7 日（日曜日）（10 時より 15 時）

場所：AA 研 302 号室

報告者名：星泉（AA 研）

参加者（9 名）：海老原志穂，津曲真一，ナムタルジャ，平田昌弘，別所裕介，星泉（以上，本課題メンバー），小川龍之介，山口哲由（以上，研究協力者），小川康（ゲスト）

6 月 6 日（土）

- ・ ビジネスミーティング（全員）10:00 – 11:00
- ・ 研究会 11:00 – 16:00
 - 放生（ツェタル）の宗教的意義（津曲真一）
 - 『チベット牧畜辞典』第一部に関する提案（別所裕介）
 - 自然利用技術としての牧畜（山口哲由）
 - 家畜の名称の語彙項目検討（海老原志穂）
- ・ 講演 16:00 – 19:00
 - チベット医学と牧畜（小川康）

6 月 7 日（日）

- ・ 研究会 10:00 – 15:00
 - 乳加工の語彙項目検討（平田昌弘）
 - 肉・骨の語彙項目検討（小川龍之介）
 - 家事労働に関する語彙項目検討（星泉）
 - 宗教に関する語彙調査報告（別所裕介，津曲真一）
- ・ ビジネスミーティング（全員）

<研究会実施報告>

本課題のメンバーで申請していた科研基盤研究 (B)「チベット牧畜民の生活知の研究とそれに基づく牧畜マルチメディア辞典の編纂」(平成 27～29 年度) が採択されたため，現地調査を継続して行うことができるようになった。このため，本研究会ではまず，今後の研究計画の見直しを行った。

その後，津曲による研究発表「放生（ツェタル）の宗教的意義」が行われた。チベットの放生とそれに関連する宗教儀礼について，先行研究を批判的に取り上げつつ，現地の事例を引きながら検討を行った。

続いて、別所により、『チベット牧畜辞典』（以下、『牧畜辞典』）の目次構成案が提示され、第一部の冒頭に掲載する文章に関して具体的な提案が行われた。また、同じく第一部に掲載する文章として、山口から「自然利用技術としての牧畜」と題する発表が行われた。

一日目の最後に、ゲストのチベット医学の専門家、小川康氏に「チベット医学と牧畜」と題する講演をしていただくとともに、『牧畜辞典』に収録を検討していた植物・薬草に関する語彙項目に対するアドバイスをいただいた。質疑応答も活発に行われた。

両日にわたり、『牧畜辞典』に掲載する語彙項目の検討を各担当者が行った。海老原は、家畜の毛の色、角の形などに基づく命名体系について、イラストを提示しながら示した。平田は乳加工の流れについて調査済みの語彙項目を整理し、追加調査が必要な項目を明確にした。小川（龍）は、肉と骨の語彙項目について、追加調査が必要な項目を明確にするとともに、肉と骨の「白地図」を使った新たな語彙調査票を提案した。星は、主に家事労働に関する語彙項目を衣・食・住に分けて整理・検討を行った。別所と津曲は宗教に関する語彙項目を整理・検討し、次回の現地調査での方針を示した。共同編集用のデータベースをさらに充実させるための打ち合わせも行った。

二日目の最後に、科研費による現地調査に関する具体的な打ち合わせを行った。